

# 摂津市小中学校の教育環境等に 関するアンケート調査結果

## 1 調査目的

小規模校化する鳥飼地域の学校の今後の施策検討に向けて、保護者の意向を把握することを目的とします。

## 2 調査項目

- ◆回答者について
- ◆小中学校の適正規模について
- ◆小学校の通学時間や通学方法について

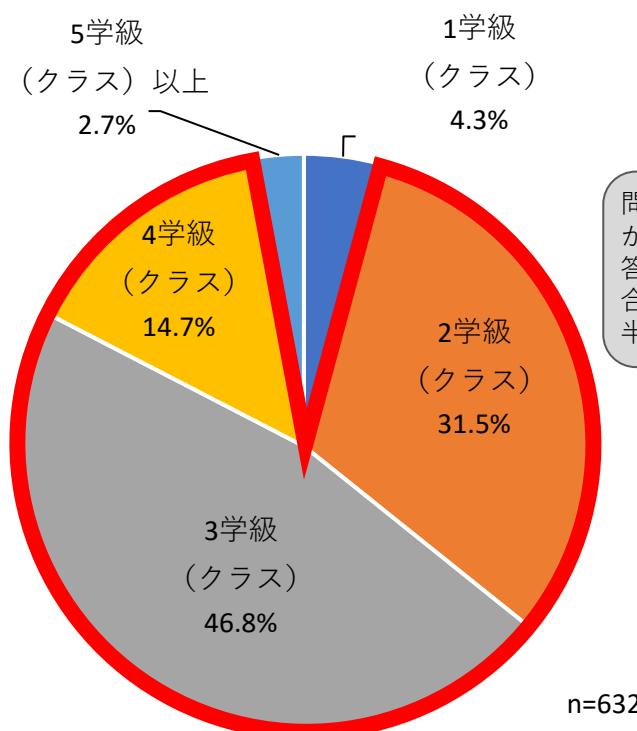
## 3 調査の設計

対象地域	摂津市鳥飼地域
調査対象	摂津市鳥飼地域の未就学児・小学生・中学生の保護者1,730世帯
抽出方法	記入お願いします
調査方法	対象の教育施設に配布し、WEB回答フォームより回収
調査時期	2022年9月16日（金）～10月10日（月）

## 4 回収結果

配布数	1,730
回収数	632（10月10日時点）
回収率	36.5%

問4 児童・生徒にとって、1学年あたりの学級数について、最も望ましいと思うものを教えてください。（あてはまるもの1つを選択）



問4で4学級が望ましいと答えた人の割合が高い

問5 問4で回答した理由について、あなたの考えに近いものを教えてください。（あてはまるものすべて選択）

問4で2学級が望ましいと答えた人の割合が高い

①

児童・生徒の人間関係が深まりやすい。

②

教職員の目が届きやすく、きめ細かい指導を受けやすい。

異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい。

学校行事やクラブ活動等において、活動の機会が多くなりやすい。

施設・設備、教材等を、余裕をもって利用できる。

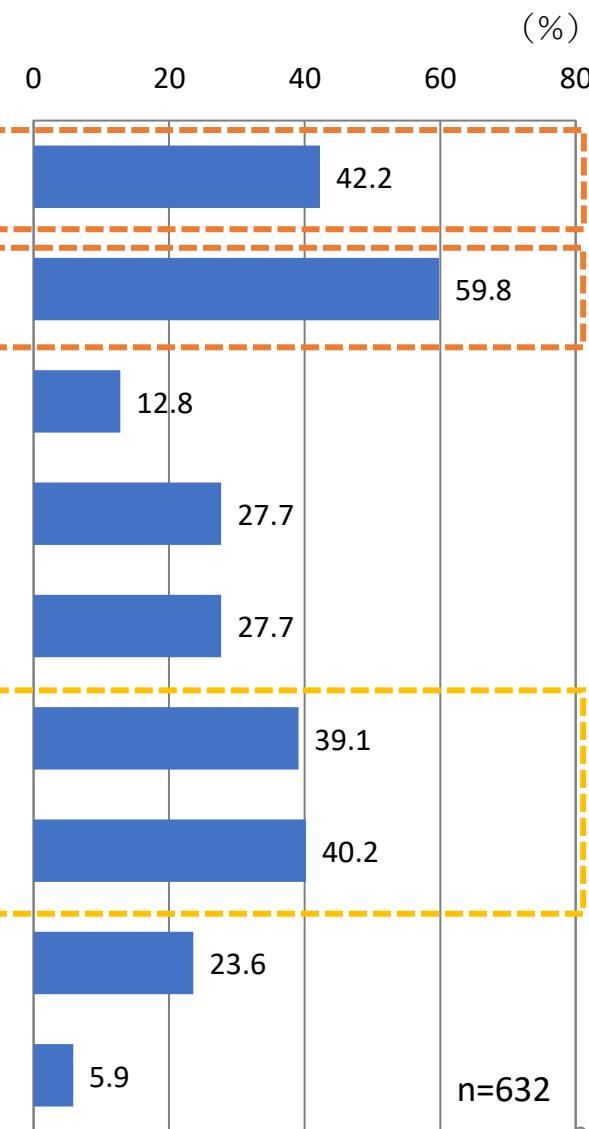
③

多様な人や考えに触れ、社会性や協調性を身につけることができる。

運動会や学習発表会等の学校行事に活気が生じやすい。

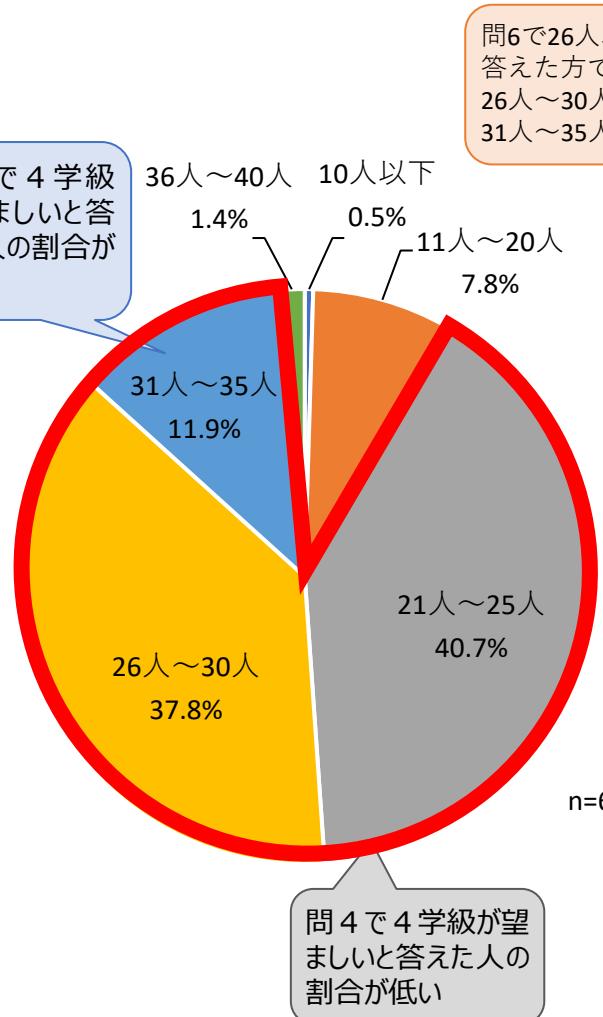
競争意識が働き、児童・生徒がお互いに切磋琢磨できる。

その他

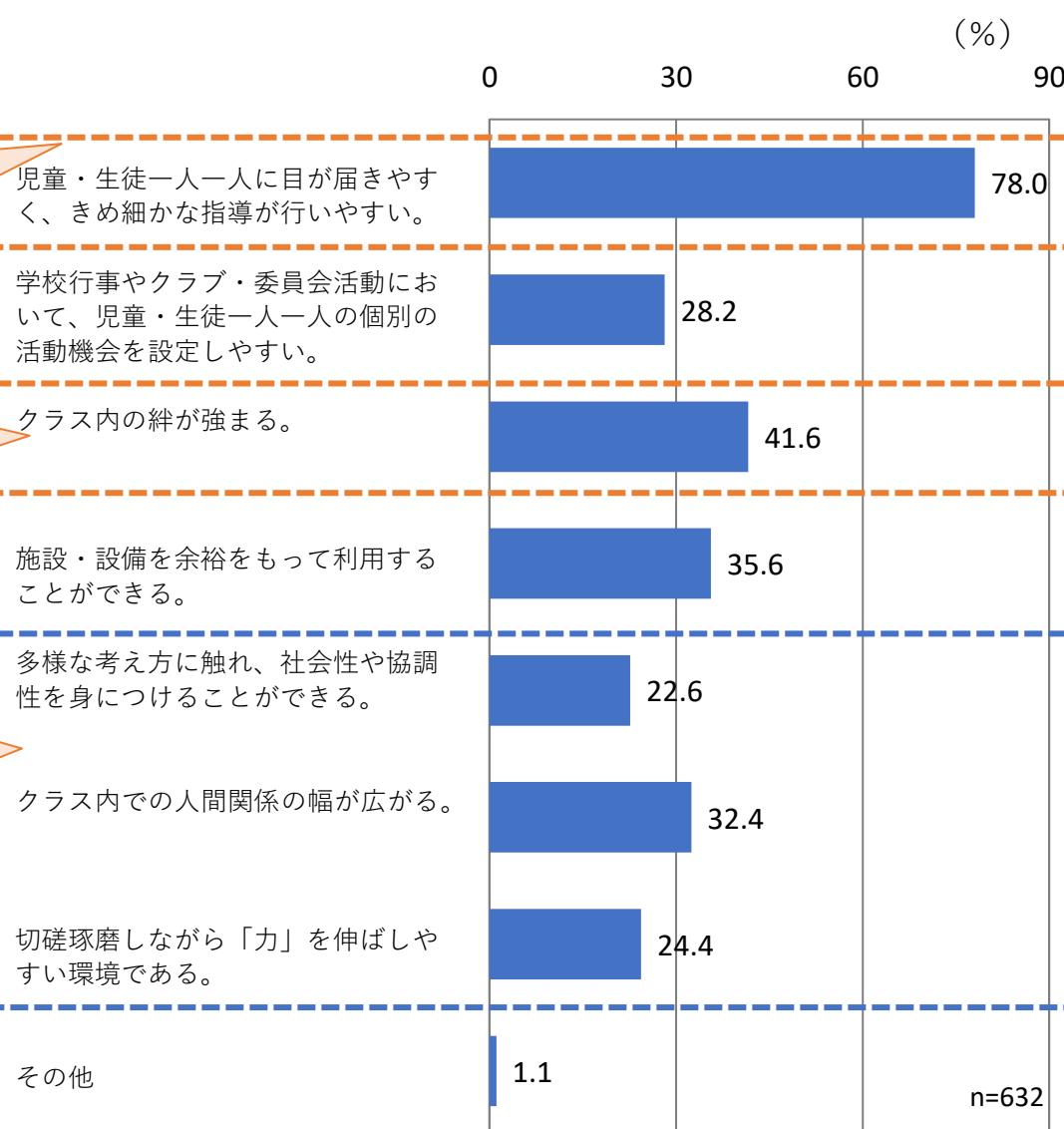


問6 児童・生徒にとって、1学級あたりの学級の人数は、どのぐらいが望ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つを選択）

問4で4学級が望ましいと答えた人の割合が高い



問7 問6的回答をされた理由として、あなたの考えに近いものを教えてください。（あてはまるものすべて選択）



問8 児童・生徒数の減少により、学級の人数が減少することが予想されます。その影響に対するあなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つを選択）

## 肯定的意見

少人数の学級は、先生の目が行き届くので、きめ細かい教育やいじめなどの早期発見が可能になる。

少人数の学級は、まとまりやすく仲間意識が強まり、違う学年同士の付き合いがしやすい。

少人数の学級は、運動会や発表会で活躍する機会が増える。

クラス替えができないことで交友関係が固定化され、人間関係づくりの能力に悪影響である。

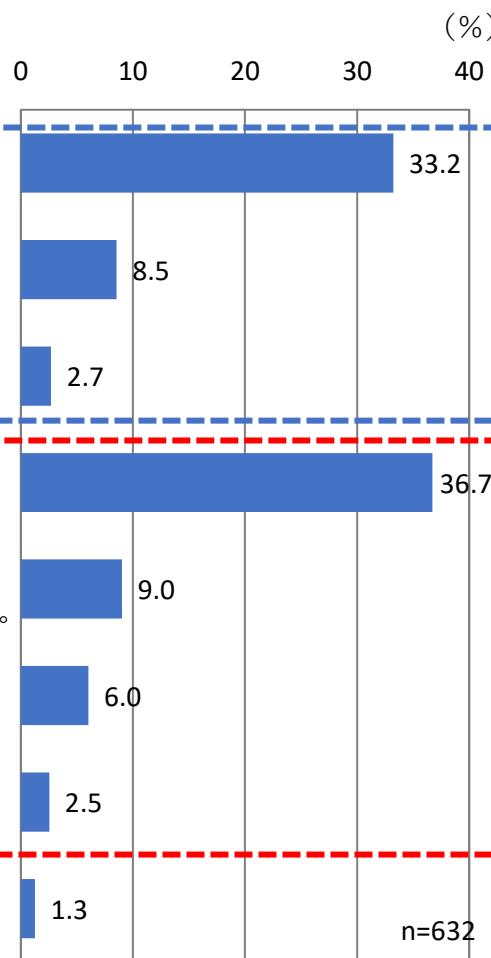
多人数の学級だからこそ得られる、多様な意見（多様性）が得られない。

団体競技や合唱などの多人数が必要な学習や経験の機会が減り、集団行動などが苦手になると思う。

少人数の学級は、競争意欲が働かなくなると思う。

その他

## 否定的意見



問9 他市では少子化により複数学年（例1・2年合同、3・4年合同など）で授業をする複式学級を取り入れている事例があります。複式学級になることについて、あなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つを選択）

## 1学級当たり人数が少ないほう（11～20人）が望ましいと答えた人の割合が高い

異なる学年が1つの学級となり、児童・生徒が相互に学び合うため、自主性が身につく。

年齢に関係なく友達ができる。

競争意識を持たせることができない。

教育効果を考えると、多種多様な意見を得られない。

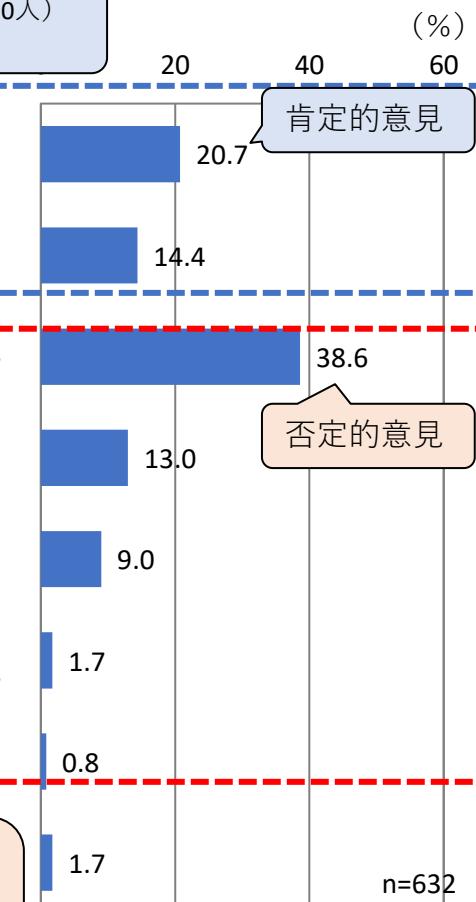
複数学年の指導に当たる教員の負担が増す。

複式学級に通わせるのは不安である。

学年差（ギャップ）による授業理解度の低下や交友関係に不安がある。

その他

学級数が多いほう（4学級）が望ましい、1学級の人数が多いほう（31～35人）が望ましいと答えた人の割合が高い



問10 小中学校の児童数が今後さらに減少する場合、小規模校についてはどのようにすることが望ましいと考えますか。あなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つを選択）

約8割が適正配置すべきと回答

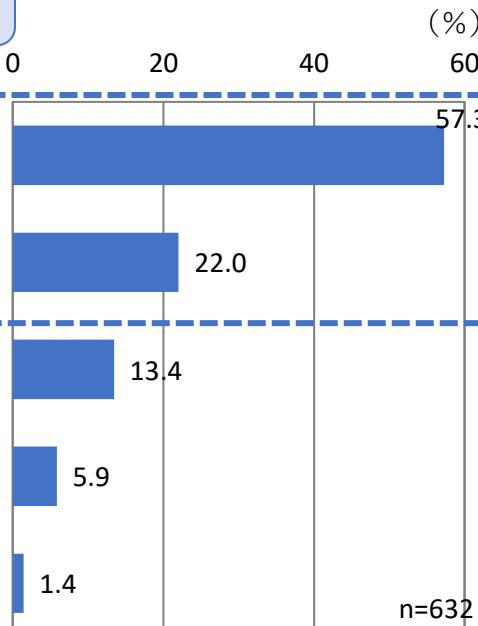
適正配置を行うべきだと思うが、子どもの交友関係や通学への影響など課題がある。

適正配置を行い、1学級あたりの児童・生徒数の確保を行う。

児童・生徒数が1クラス10人以下まで減少してから、適正配置を行うべきである。

児童・生徒数や学級数が減少しても、適正配置を行わない。

その他



問11 問10の回答をされた理由について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つを選択）

クラス替えができることで人間関係が固定化されにくく、多様な考えに触れ人間関係づくりの能力が高まる。

大きな集団の中でクラス対抗競技（集団競技）や音楽の合唱などの、教育活動の幅が広がる。

学校に配置される教職員が増えるため、教職員の校務の負担が分散化され、授業準備や教材研究の時間、児童とふれあう時間が多くのくなる。

学校施設の維持管理には多額のコストがかかるので、その分を他の教育施策へ回す方がよい。

全ての児童が顔見知りであることなどから、学校としてまとまりやすい。

学校として、児童一人一人の生活実態が把握しやすいことから、家庭との連携がとりやすい。

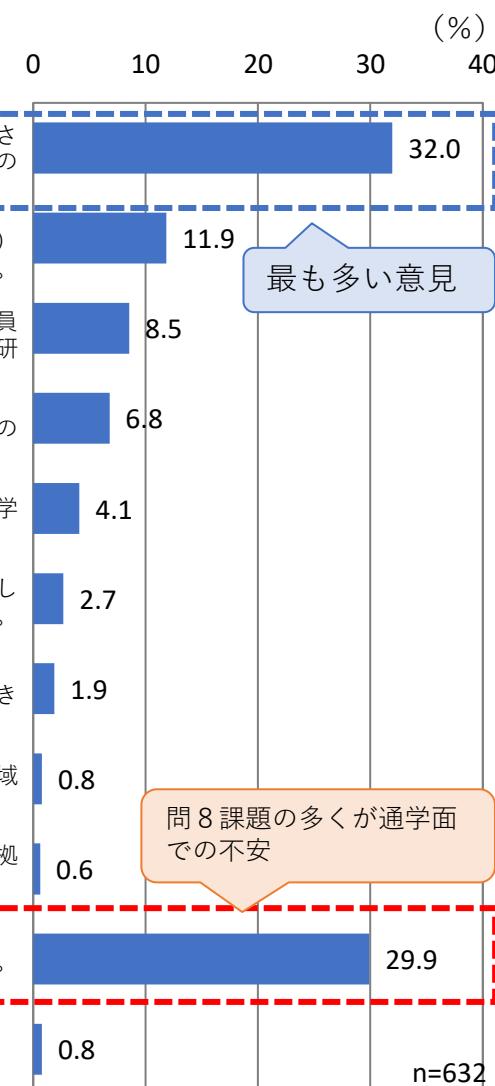
1クラスの児童数が少なければ、一人一人にきめ細かい指導を行いやすい。

学校は地域とともに歩んできた歴史があり地域の衰退につながる。

学校は、地域コミュニティの核であり、防災拠点としての位置づけが強い施設である。

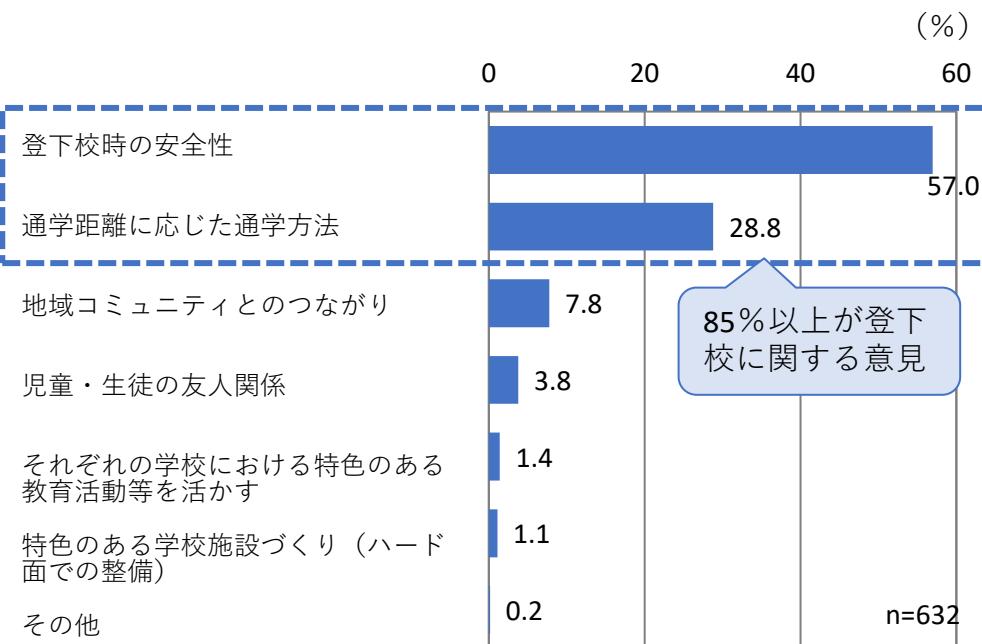
登下校時における子どもの安全が不安である。

その他

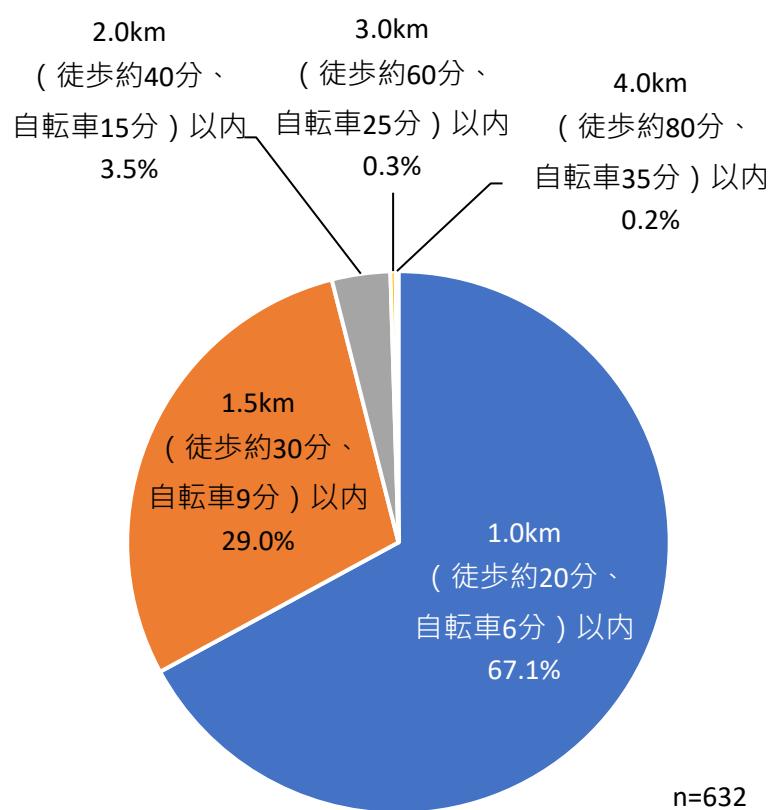


問8課題の多くが通学面での不安

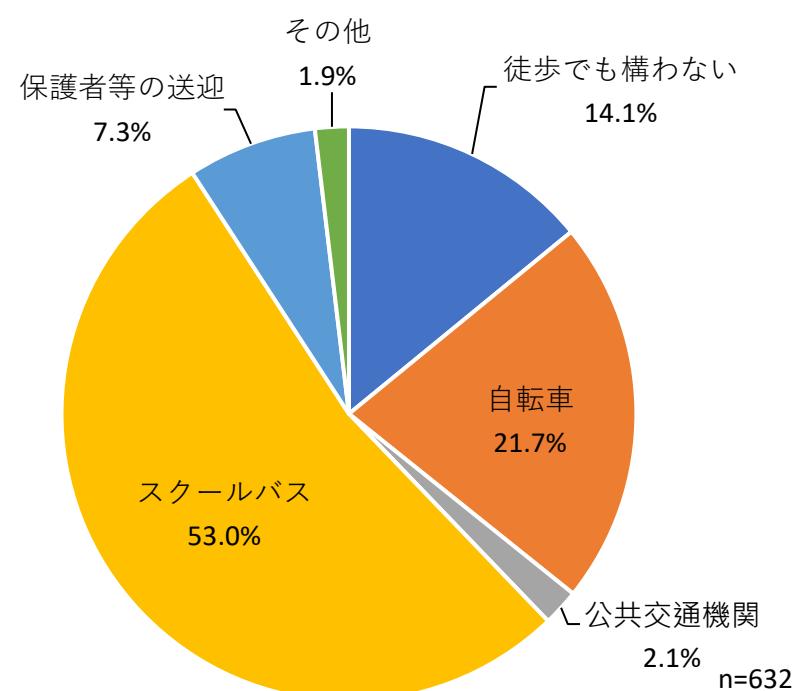
問14 学校の適正規模・適正配置について検討する上で、最も重視すべきと思うものを教えてください。（あってはまるもの1つを選択）



問12 子どもの（徒歩の）通学時間として、どの程度までが許容範囲だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つを選択）



問13 問12の回答以遠（徒歩の許容範囲外）の場所に学校がある場合、通学のためにどのような配慮が必要であると思いますか。あなたの考えに最も近いものを教えてください。（あてはまるもの1つを選択）



問15 そのほか、学校規模適正化に係るご意見がありましたら、ご記入ください。

分類	件数
校区、学校選択制について	16
通学について(安全性など)	12
適正化の推進について	10
通学について(手段、スクールバス)	7
子育て世帯の誘致について	7
その他	7
通学について(時間、距離)	6
小中一貫校について	5
制度の問題点について	5
学級児童数について(少ない児童数による利点)	4
学級児童数について(児童数の増加による欠点)	4
教員の配置について	4
立地について	4
学校、保護者、地域の交流について	4
複式学級について	3
学級児童数について(少ない児童数による欠点)	3
学級児童数について	2
学級児童数について(児童数の増加による利点)	2
特になし	8

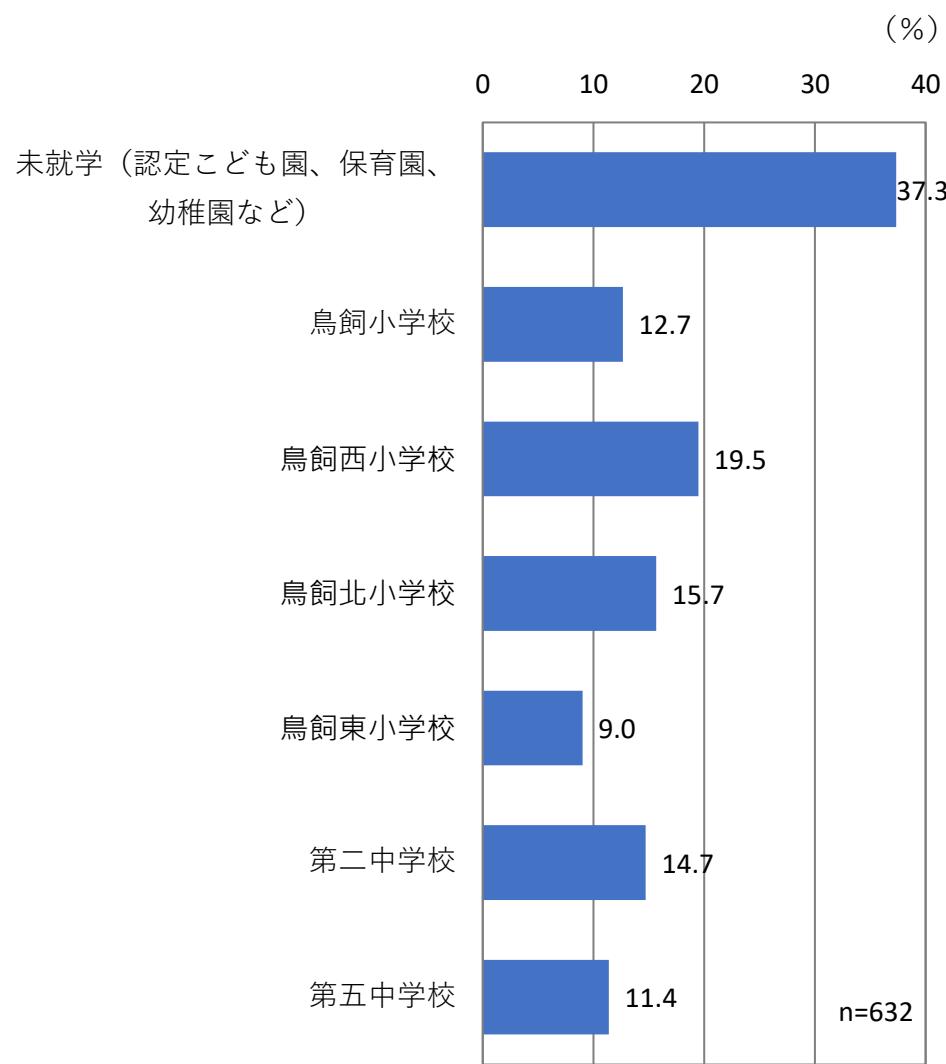
問18 そのほか、教育に係ることでご意見がありましたら、ご記入ください。

分類	件数
教職員について	20
学力について	14
教育環境の改善、教育の充実について	9
学級人数について	6
支援が必要な児童・生徒について	6
こども園・保育園について	6
子育て世帯の誘致について	6
いじめについて	5
ICTについて	5
通学路の安全性について	5
学校、保護者、地域の関係について	4
その他	4
学級数について	3
部活動について	3
学生鞄・制服等について	3
通学の持ち物について	3
複式学級について	2
成績、評定について	2
PTAについて	2
インクルーシブ教育について	2
給食について	2
適正化について	2
通学手段について	2
校区、学校選択について	1
図書館について	1
地域の行事について	1
小学校の見学について	1
特になし	8

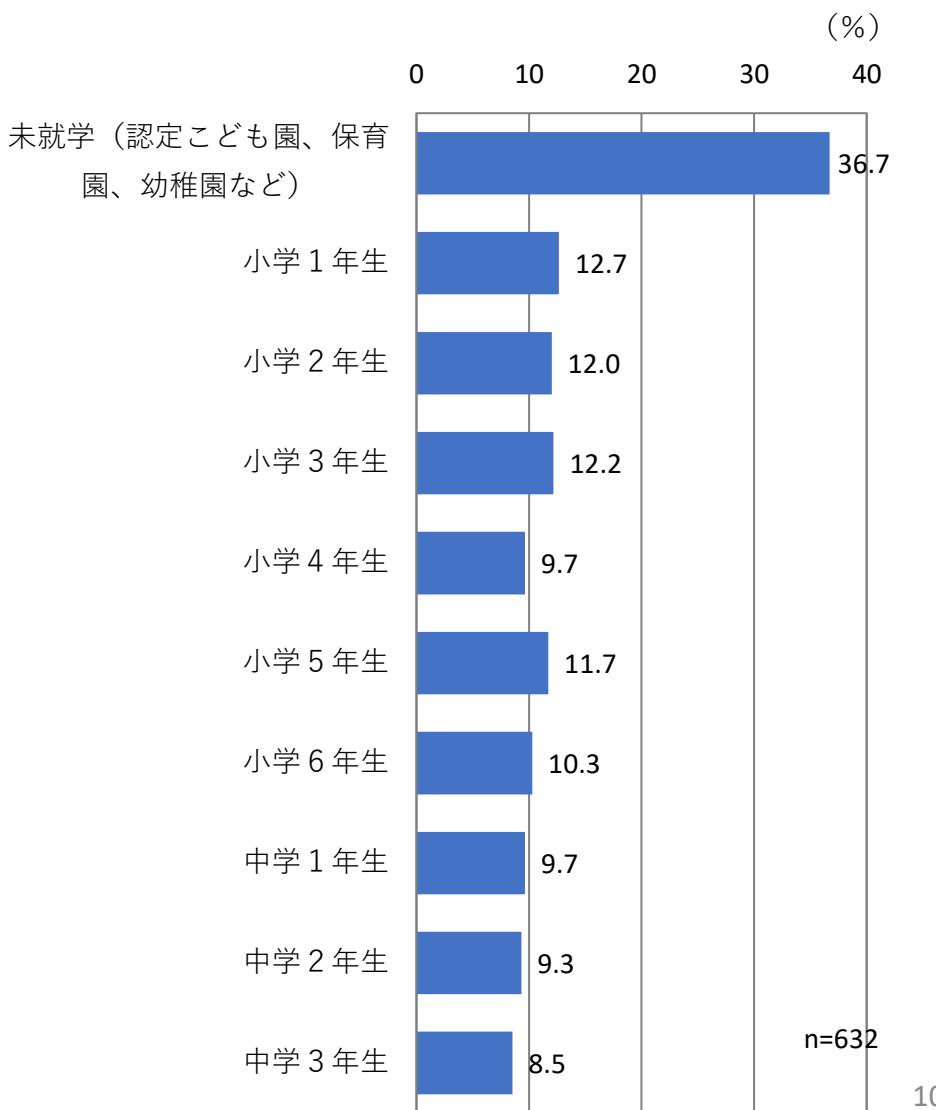
# 小中学校の教育環境等に関するアンケート調査結果

■回答者について

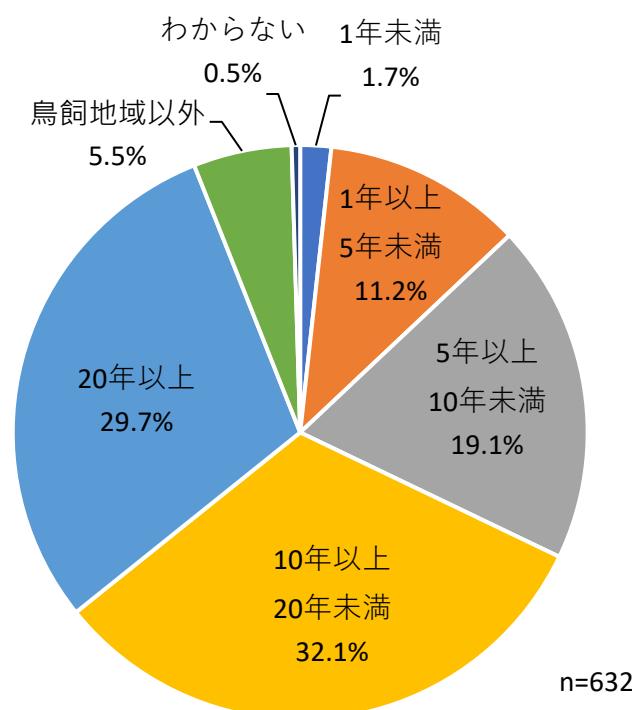
問2 本調査依頼状を持ち帰ったお子さま全員が通っている学校を選択してください。（あてはまるものすべて選択）



問3 本調査依頼状を持ち帰ったお子さま全員の学年を選択してください。（あてはまるものすべて選択）



問16 鳥飼地域の居住年数を教えてください。（あてはまるもの1つを選択）



問17 鳥飼地域での居住意向を教えてください。（あてはまるもの1つを選択）

